

deleteCを応援してくださるみなさまへ

delete 

オリジナルのdeleteC
#deleteCやってみた
#deleteC
みんなの力で、がんを治せる病気にするプロジェクト

2022年9月22日。

私たちは「認定NPO法人deleteC」として新たなスタートを切ることになりました。ここに至るまで、振り返ってみれば、deleteCには数々の節目となる日がありました。

たとえば—。

2018年11月2日。

渋谷のカフェの片隅で、deleteCの構想は誕生しました。Cancerの文字に赤い線が入った1枚の名刺から、このプロジェクトは始まったのです。

2019年2月4日。

世界対がんデーのこの日、中島ナオ、長井陽子、小国士朗の3人が発起人として、「deleteCの構想を世界に向けて発信しよう！」と小さなイベントを開きました。

2019年5月11日。

「deleteC先行プレミアム体験会」と銘打ったイベントを渋谷で開催。初めて「C」を消したコラボ商品を販売するなど、deleteCが目指す世界観を表現。この日の風景がdeleteCの大切な“原風景”となりました。

2019年9月5日。

deleteCは特定非営利活動法人になりました。そして10月20日に丸の内でdeleteCの本格スタートを宣言するイベントを実施。この時点で30社がdeleteCに参加し、誰もが知っているあの商品からも「C」が消えるなど、少しずつ手ごたえを感じ始めました。

2020年2月1日。

「deleteC 2020 -HOPE-」と名付けたイベント。この日、わたしたちは初めて2つのがん治療研究に対して、それぞれ100万円ずつの寄付をお渡ししました。それは、がんの治療研究の世界でいえば、とても小さな力だったのかもしれませんが、でも、医師・研究者の皆さんから寄せられる熱い期待の言葉を聞いて、「たくさんの市民を巻き込むdeleteCの活動はやはり必要なんだ」と思いを強くすることができました。

それ以外にも、deleteCにはたくさんの、本当にとくさんの節目となる日がありました。その日その時を全力でつくり上げていく中で、少しずつ小さな点だったものが線や面になり、ただのエソラゴトだったことが、ひとつひとつカタチになっていきました。

気が付けば100社を超える企業が、著名なアーティストやアスリートが、がん治療研究の第一線で走り続けるたくさんの医療・研究者がdeleteCに参加していました。そして、3年で6つの治療研究に対して、2000万円を超える寄付をお渡しできるまでになったのです。

2022年9月22日。

認定NPO法人となった今、私たちdeleteCが次に描くエソラゴトは明確です。それは「deleteCを文化にする」ことです。

クリスマスやハロウィンやバレンタインのように、「9月といえばdeleteC」という感じで、みんなが当たり前のように「C」を消すアクションをする。

まるでアイドルを推すかのように、研究者や研究を推して、推して、推しまくる「推し研！」というコンセプトをさらに進化させる。

そして、がん治療研究の応援に1億人が参加できる仕組みを作っていく。

「私たち」がやっていきたいのはそういうことです。

今、「私たち」と書きました。

この「私たち」は、なにもdeleteCのメンバーだけを指したものではありません。この文章を読んでくださっている、みなさんも含まれています。この3年余りの間にご支援頂いた約5500人の方々も、deleteCのアクションに参加をしてくださったのべ1,080,158人の方々も含まれています。

deleteCがかかげるミッションは、「みんなの力で、がんを治せる病気にする」です。ひとりひとりの力は小さいかもしれない、でも、それが集まったとき、これまでに見たことのない世界が拓けていくと思うのです。

最後に、創業代表理事の中島ナオが語っていた言葉で、deleteCが最も大切にしている言葉をかかげておきます。

くらいものをあかるく おもいものをかるく かたいものをやわらかく

これからもみなさんと一緒にたくさんのエソラゴトを描き、ひとつひとつを本気でカタチにしていき、がんを治せる未来を手繰り寄せていけたらと思います。

わたしたちは、応援しつづける

2022年9月22日

認定特定非営利活動法人 代表理事

小国士朗

推し研 雄星喜